

(様式第8号)

## 事業報告書 (令和 2 年度)

事業名 ミュージカル「つながるねがい 2020」

団体名 劇団公民館京山 担当者名 鴨井

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日 時 2021年1月23日（土）

場 所 京山公民館

参加対象者 劇団員（小学4年生から社会人）  
フェスティバル参加者（地域住民、学生ほか）

人 数 25人+30人

内 容 京山地区ESD・SDGsフェスティバルは今回で16回目になる。劇団公民館京山は、第4回から参加させてもらって、毎回公演を行っていた。しかし、コロナ禍のためミュージカル公演は行わず、京山スタジオライブ《その他の活動発表》というプログラムのなかで、一年間の活動で作成した映像作品の提供を行った。映像の内容は、「陽はまた昇る」という新しく書き下ろした歌と踊りを中心に、コロナ禍の中でも人々の明るさや希望を思いおこさせるショートストーリーとした。この作品は、当初の制作予定の「つながるねがい」における災害からの希望や諦めない、頑張るという劇団の想いも込めて、今、それぞれにwithコロナで頑張っていることを応援したいという作品になっている。

当日にいたるまでの劇団活動は、コロナ対策を行い、基本的に屋外で映像を撮影し、作品の制作を行った。

### 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

映像作品をつくるにあたり、コロナ禍で頑張っている地域を応援したいと思い、撮影場所を岡山県内全域について検討した。その結果、県北の山々や海沿いの砂浜で撮影を行い、日中だけでなく夜の星空やホテルといった、その地区の特色を作品へ取り入れるよう工夫を行った。練習では、互いの顔をみながらの意志疎通を図ることを重視し、オンラインを取り入れた。

また、京山地区ESD・SDGsフェスティバルの地域の絆プロジェクト座談会「コロナ禍の中で“つらさ”“困難さ”を乗り越えるために：SDGs」にもメッセージで参加させていただいた。世代を超えた他の活動についても知ることができ、コロナ禍での一人一人が抱える孤独感やつらさと社会の閉塞感を共有させていただけたことが、改めてESDという活動や公民館での活動の意義を感じることができた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

例年とは全く異なるオンラインを中心とした映像作品を作るようになったが、それぞれが置かれている状況を思いやる活動を行うことができた。一方で、オンラインにおけるコミュニケーションの難しさを感じ、人と人が支え合い励まし合うこと、何気ない日常の会話、人と人が触れ合う大切さ、そして生活基盤による安心感といったことの大切さを感じながらの活動であった。そういった中で、状況に対応しながら劇団活動を行えたこと、劇団活動を通じた居場所づくりの大切さを感じた。

最後に、今年の活動で団員が感じたことに、やり遂げることや人に必要とされることは一人では培っていけないものということがあった。それを体感できたこと自体が、かけがえない学びになったと改めて気づかされた。

4. 今後の課題と展望

今回の経験を踏まえて、今後も映像作品制作にも取り組んでいきたい。また、作品を提供する方法も引き続き検討したい。